法華宗信報

巻頭法話 大本山本興寺御貫首 小西日遶猊下

導 ～しるべ～

法要紹介

学び－第34回法華宗教学研究発表大会

祈り－災害・戦災犠牲者慰霊・災害復興祈願法要

クイズ！編集長からの挑戦!!

いまさら聞けない　まめ知識！

お焼香の作法

法華宗サンフランシスコ仏教会開堂50年記念

ご存知ですか？

アメリカにも法華宗のお寺があるんです！

174号

令和6年7月1日

発行：法華宗宗務院

お盆を迎えて

大本山本興寺貫首　小西　日遶

令和二年一月からコロナウイルスによる感染症が流行して、世界の状況は一変いたしました。はじめはウイルスの実体も不明で感染者が続出したことから、密接・密集・密閉という三密を避けるために人々は外出したり集合することを避け、リモートによる会合が勧められました。その結果私たちの日常生活にも大きな変化が生じ、観光のための外出や家庭外で食事をすることが激減した結果、観光産業や飲食関係の業界では倒産が続き、交通や運輸関係にも支障を来し、国の経済活動に大きな損失を与えました。最近になって、ウイルスの強さも第五類に分類されて各種の規制が解かれ、人々の社会面での活動も元に戻りつつあるように思われます。

しかしここ数年のコロナ禍は、宗教活動ことに先祖供養についても大きな影響を与えました。それは感染防止のために、人々が集合してはいけないと考えて、お寺の恒例行事や個人宅での法要に参加しない人が増えたことです。また御住職が檀信徒の自宅へお参りすることさえ断られることがありました。そしてこの変化した寺と檀信徒の方々との状態はコロナ禍が収まりつつある現在もなお続いており、以前のようにみんなが自由に交流し、参拝出来る状況に早く戻ってほしいと思います。

さて間もなく盂蘭盆の季節がまいります。私たちは日頃から御先祖の霊位への追善供

養を心掛けておりますが、お盆の時期には殊に念入りに有縁の方々への御供養をいたします。日蓮大聖人は両親への孝養について次のように示しておられます。

孝養に三種あり。飲食を施すを下品とし、父母の意に違わざるを中品とし、功徳を回向するを上品とす。存生の父母にだに尚功徳を回向するを上品とす。況や亡親においておや。

（十王讃歎抄）

父母への孝養には三種の段階があり、食事を用意することは、最下のもので、親の意向に違わないことは普通の孝養であり、最高の孝養は功徳を回向することで、父母が健在でもそうであるが、亡き父母についてはなおさら大事なことであると。さらに孝養について、

父母に御孝養の意あらん人々は法華経を贈り給ふべし、教主釈尊の父母の御孝養には法華経を贈り給ひて候。日蓮が母存生してをはせしに、仰せ候し事をもあまりにそむきまいらせて候しかば、今をくれまいらせて候があながちに悔しく覚へて候へば、一代聖教を検へて母の孝養を仕らんと存じ候間、母の御訪ひ申させ給ふ人々をば我身の様に思ひまいらせ候へば、あまりにうれしく思ひまいらせ候間、あらあらかきつけて申し候也。定め過去聖霊も忽ちに六道の垢穢を離れて霊山浄土へ御参り候らん。

（刑部左衛門尉女房御返事）

父母に孝養を尽くそうとする人は両親に法華経を供養しなさい。それは釈尊が父母への孝養のために法華経を贈られたからです。私は母の存生中に母の言葉に背いたことを後悔しており、仏が説かれた諸経を調べた上で、母親に孝養したいと思っていたので、母親を供養する人はわが身のように思われて、うれしくてたまりません。法華経を供養された聖霊は忽ちに六道の穢れを離れて霊山浄土へ参られるのです。とあります。

私たちは御祖師様から御題目を唱えることを教えて頂きました。自ら唱えた南無妙法蓮華経の声は、わが身を浄化し、亡き精霊を念ずれば追善供養の志ともなり、やがてはその声が集まって一天四海皆帰妙法の世界が来るものと信じます。しかしこれは今後の若い人たちへの信仰の継続が無ければ叶うことではありません。コロナ禍も小康状態になった今、これからの夏休みなど家族が共に過ごせる機会を利用して、若い人たちに御先祖への供養が大切なことを話してあげることは出来ないでしょうか。

お盆の時期を迎えて、みんなで一緒にお題目を唱えようではありませんか。

本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経。

アルカトラズ島

Francisco

法華宗

サンフランシスコ仏教会

フィッシャーマンズワーフ

法華宗 サンフランシスコ仏教会
開堂五十年記念

アメリカにも

ご存知ですか？

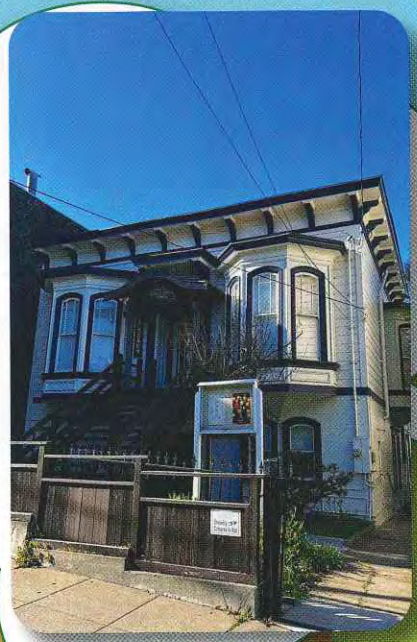
法華宗のお寺があるんです！

日本のお寺とは印象が少し異なるご宝前。
日本と違い、必要なものが手に入りにくいのも、
国の違いを感じさせます。

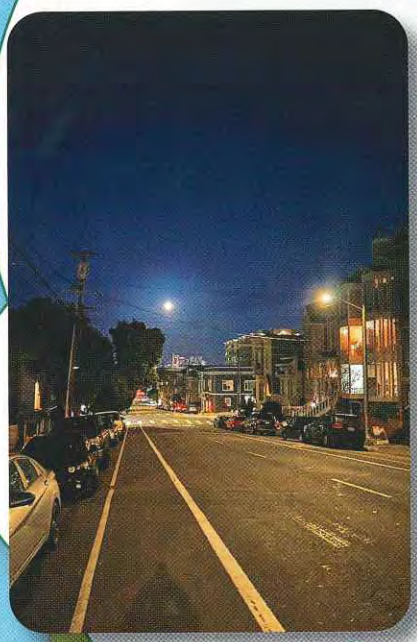
令和5年に、佐藤日賢
猊下を日本よりお迎え
して、開堂50年記念
法要を奉修しました。

San

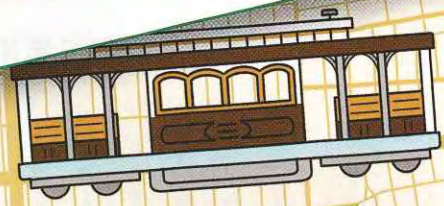
ゴールデン・ゲート・
ブリッジ



サンフランシスコの
旧民家を改修した建
物で、築100年近いも
のとなっています。



街並みも日本とは印
象が異なります。
サンフランシスコは
坂の多い街です。



ゴールデン・
ゲート・
パーク

日本茶園

ツインピークス

法華宗
サンフランシスコ
仏教会
開教師　平島祐龍

気候は夏も暑くなく冬もそこまで寒くありません。ですので年中快適な気候ですが、雨が多い季節（雨季）があります。

観光名所といえば市内の急勾配な坂を走るケーブルカー、北にかかるゴールデンゲートブリッジ、クラムチャウダーが有名な漁港フィッシャーマンズワーフ、などがあります。

令和二年には教会の改修工事を行い、法華宗寺院関係者の皆様方にご寄付を頂き大変感謝申し上げます。綺麗になった教会で活動・生活させていただいております。

サンフランシスコにお越しの際はぜひ教会にもお立ち寄りください。

皆で研鑽を共有し理解を深める

学び

第34回 法華宗教学研究発表大会

令和6年3月14日　於:東京国際フォーラム(東京都)

去る三月十四日、東京国際フォーラムに於いて法華宗教学研究発表大会が法華宗宗務院・興隆学林専門学校の共催で開催された。

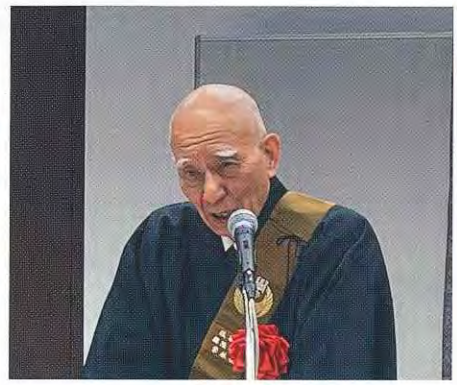
この度、第三十四回目を迎えた今大会も八十名以上の多くの来場者を迎えた。年々来場者が増えているとのことで、本大会への社会の関心が高まっていることが伺える。

本大会は、学術研究のみならず、広く布教・教化に資するための勉強会がそもそもの出発で、宗門内外の研究者がそれぞれの研究成果を広く発信し今日の仏教研究を支え、発展させる重要かつ貴重なものであり、正に仏教研究に於ける最前線である。

研究発表は午前午後と二部制にて行われ、計六名が発表した。さらに興隆学林専門学校学林長大平宏龍先生、宗外から北海道教育大学名誉教授佐々木馨先生による特別講演があった。

来場者は皆、発表に対して真剣な表情で聞き入り、発表後には質疑応答が交わされるなど、熱気に満ちた雰囲気であった。

最後に興隆学林専門学校学監株橋祐史先生より、法華宗のみならず仏教界全体の発展、さらには現代社会にどうアプローチしていくのかを考えながら、今後の研究活動を充実したものにしていかなければならないという決意の言葉をもって閉会した。



供養と祈願のお題目で心の復興も

災害・戦災犠牲者慰霊・災害復興祈願法要

祈り

令和6年3月11日　於：法華宗宗務院（東京都）

令和六年三月十一日、法華宗宗務院において、「東日本大震災犠牲者慰霊・東京大空襲犠牲者慰霊・令和六年能登半島地震犠牲者慰霊・復興祈願並びに全国自然災害犠牲者慰霊法要」が奉修された。

法華宗宗務総長金井孝顕台下を導師に内局各上人、宗内布教部代表の方々で法味言上した。

法要後金井台下は、「多数の被災者が苦しんでおられる。ライフラインの復興はもとより、心の復興が大切である。そのために供養と祈願のお題目を唱え続け、心の復興をもたらすのは我々僧侶の務めである。」と述べられた。

編集長後記

いつも法華宗信報をご愛読いただきまして有り難うございます。

今号から編集部は2年目を迎えました。より一層進化出来るように編集部一同頑張りますので、御指導よろしくお願いいたします。

サンフランシスコ仏教会開堂50周年ということで、皆様へご紹介させていただきました。(ご存じの方は法華宗通です♪)

定例企画の「いまさら聞けないまめ知識！」は、～お焼香の作法～ということで、本山や菩提寺にお参りいただいた際の参考にしていただければ有り難いです。

今号はお盆号です。表紙のようにみずみずしくおいしいキュウリに乗ってこられたご先祖様と皆様が、笑顔に包まれた穏やかな時間を過ごせていただけるよう祈念しております。

編集長 拝

法華宗信報
No.174

発行人／金井孝顕

発行所／法華宗宗務院
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町
2-19-1
TEL 03-5614-3055

編集人／山上晶教

編集部／〒572-0088
大阪府寝屋川市木屋元町11
本信寺内
TEL 072-831-0640

イラスト／水野ゆうこ
印刷所／有本印刷株式会社

法華宗（本門流）
ホームページ

http://www.hokkeshu.or.jp

クイズ！ 編集長挑戦からの!!

なぞなぞ

A
カメと、ラクダと、サイが一緒に買い物にいきました。何を買いに行った？

B
名前は二文字なのに「かねなり」と言われちゃう鳥とは？

C
砂にあって土にない。
鳩にあって鷹にない。
柱にあって床にない。
腕にあって足にない。
これ何だ？

クイズの答え：A カメラ（カメラクサイ）、B トキ、C 時計

いまさら聞けない まめ知識！ お焼香（しょうこう）の作法

1

ご宝前に向かって右手より入り、お導師様に合掌一礼してから焼香台へ進みます。

2

正面に向きなおり、仏さまに合掌礼拝します。

3

右手で抹香をつまみ、顔の前へ頂戴（押し頂いて）して焼香します。これを三回繰り返します。

4

焼香後、再び仏さまに合掌一礼して左手へ進み、お導師様に合掌一礼して下がります。

参考文献『法華宗信徒必携』

※作法につきましては状況によって異なります。
ご不明の点は菩提寺のお上人にお尋ねください。